

## 平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「柏原東高校の教育力」と「柏原地域連携型中高一貫教育」による教育活動を展開することで地域や社会に貢献できる人材を育成し、生徒・保護者・地域から愛され、信頼される学校をめざす。

- 1 自らの夢と志を育み、自立できる生徒を育成する学校
- 2 規範意識の醸成・自他敬愛の精神の涵養を通じて、豊かな人間性を育む学校
- 3 地域とともに歩み、地域に愛される学校

## 2 中期的目標

## 1 「確かな学力」の育成

(1) 授業改善と授業力の向上を図ることによって「わかる授業」を展開し、多様な進路を実現するための基礎学力の定着と実践学力の獲得に取り組む。

ア 授業アンケート、学校教育自己診断に対する分析を通して課題の発見、改善策の策定によって授業改善をすすめる。

※授業アンケート（9項目の学校平均）の肯定的評価（年2回実施の平均、平成29年度78%）を毎年2%上げ、2020年度には84%にする。

※学校教育自己診断の授業理解度（平成29年度生徒42%）を毎年2%上げ、2020年度には生徒48%にする。

イ 「B-upタイム」（Brush up タイム）による「基礎学力定着」と「特別進学コース」による「実践学力獲得」を継続・発展させる。

※学校斡旋就職内定率100%（平成29年度6年連続）を毎年達成して、2020年度には9年連続とする。

※2020年度までに地元大阪教育大学または難関私立大学に1名合格させる。（平成27年度に近畿大学1名合格）

## 2 中退・不登校の未然防止

(1) 生徒の規範意識を醸成するとともに個々の生徒への支援体制を構築する。

ア 「厳しく寄り添う」生徒指導を継続する。

※年間遅刻者・欠席者総数（平成29年度 1328人・3813人）を毎年10%縮減する。

※学校教育自己診断の生徒指導納得・共感度（平成29年度生徒40%、保護者72%）を毎年2%上げ、2020年度には生徒46%、保護者78%にする。

※学校教育自己診断の規範意識度（平成29年度生徒86%、保護者87%）を毎年1%上げ、2020年度には生徒89%、保護者90%にする。

※支援の必要な生徒に対する個別の支援・指導計画を毎年100%作成する。

(2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。

ア 生徒自らが、積極的・主体的に取り組む学校行事や生徒会活動、部活動を展開し、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。

※学校教育自己診断における学校満足度（平成29年度生徒63%、保護者86%）を毎年2%上げ、2020年度には生徒69%、保護者92%にする。

※学校教育自己診断における学校行事満足度（平成29年度生徒67%、保護者79%）を毎年2%上げ、2020年度には生徒73%、保護者85%にする。

※学校教育自己診断における達成感（平成29年度生徒74%、保護者91%）を毎年2%上げ、2020年度には80%、97%にする

※学校教育自己診断における人間的成長感（平成29年度生徒69%、保護者82%）を毎年2%上げ、2020年度には生徒75%、保護者88%にする。

※部活動加入率（平成29年度39%）を平成30年度に40%とし、2020年度までこれを維持する。

※部活動の活性化を図るために八尾翠翔高校との機能統合をすすめる。

## 3 開かれた学校づくりの推進

(1) 柏原地域連携型中高一貫教育体制の維持とさらなる進展を図る。

ア 連携授業（書写・書道）の維持を図るとともに、生徒会活動や部活動および授業見学等を通じ生徒交流・職員交流を進展させる。

※中学校生徒向け連携授業アンケートにおける満足度、理解度（平成29年度97.8%、98.6%）を毎年1%上げ、2020年度には100%、100%にする。

(2) 地元大学（大阪教育大学）との高大連携による教育力の向上を図るとともに外部への情報発信力を強化する。

ア 大学との交流事業について八尾翠翔高校との連携・移行を検討しながら、三者にメリットのある連携を構築する。

※国際交流の継続開催により、2020年度には5回目の交流会を開催するとともに内容を充実させる。

イ HPやメルマガ、学校説明会、学校訪問などあらゆる機会を活用し、本校の教育活動の情報発信を強化する。

※学校教育自己診断における情報提供（平成29年度保護者70%）を毎年2%上げ、2020年度には76%にする。

※教職員学校教育自己診断における情報発信（平成29年度63%）を毎年2%上げ、2020年度には69%にする。

## 4 教職員の資質向上

(1) 教職員の人権教育推進に対する意識向上を図る。 ※教職員学校教育自己診断における人権教育（平成29年度61%）を毎年3%上げ、2020年度には70%にする。

(2) 勤務時間管理、健康管理に対する教職員の意識改革を図ることによって「働き方改革」を進める。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
------------------------------	--------------

府立柏原東高等学校

<p>*アンケート回収率 生徒99% (長欠者含む)、保護者97% : 高い回収率 (以下の数値 H29 %→H30 %)</p> <p>①学校への満足度 生徒63%→62%○、保護者86%→84%△</p> <p>②人間的成長 生徒69%→64%△、保護者82%→82%○ 生徒の学校満足度、成長感から、高い自己目標と厳しい自己評価が推測できる。</p> <p>③授業理解度 生徒42%→44%◎ : 授業アンケートでも同様の結果が出ている。</p> <p>④学校生活の充実度 (近年上昇傾向が続いている) 「自分は学校で頑張っている」 生徒74%→70%△ 保護者91%→90%○ 「学校は楽しい」 生徒68%→68%○ 保護者73%→72%○ 「学校行事は楽しい」 生徒68%→67%○ 保護者78%→81%◎ 多くの生徒・保護者が学校生活を肯定的にとらえている。再編整備による閉校に向けてこの傾向を維持・伸張できるよう学校全体で取り組んでいく。</p> <p>⑤生徒の人権や安全確保 「信頼できる先生が多い」 生徒47%→48%◎ 保護者53%→59%◎ 「学校は親身である」 生徒49%→51%◎ 保護者68%→68%○ 「学校は体調に配慮している」 生徒34%→41%◎ 保護者67%→67%○ 「生命の大切さやルール学習」 生徒63%→62%○ 保護者82%→82%○ 数値は向上しているが、授業出席への厳しさが生徒の体調配慮項目の低評価につながっている。全体的には学校に対する信頼度は高い。</p> <p>⑥教職員の結果 19項目中17項目で数値が向上 (平均8ポイントUP) しており、学校全体としての取り組みは成果をあげている。唯一70%未満であったのが「人権学習の積極性」であり、本校独自の「人権マップ」の更なる強化をめざしたい。</p>	<p>第1回 平成30年7月2日(月) 14:55~16:15</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>柏原東高校の先生方の生徒中心で少しでもいい学校にしようという取り組みに敬服する。生徒数の減少の中で大阪教育大学の保健体育やスポーツ分野としても、どういう形でより実質的に連携ができるかということを考えていきたい。</li> <li>P.T.Aの話題として、もし今後先生だけでは足りないところはP.T.Aが補うなどのことをしてもいいのではないかとあった。</li> <li>生徒には今までどおり厳しく接し、生徒たちを卒業まで引っ張ってほしいと思う。</li> <li>柏原東から異動された先生と会う機会が多いが、この学校は先生たちも成長させる学校であると皆さん言っておられるし、なくなるということがとても残念。</li> </ul> <p>第2回 平成30年11月5日(月) 14:00~16:00</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>柏原東に来てやっぱり先生をめざしたいという学生が研究室に来ているので、フィールドワークの取り組みは大教大としてはありがたい。</li> <li>今年度から大学は「コラボレーション実習」を開講しているので、活用してほしい。</li> <li>地域の方々にも柏原東高校の卒業生はたくさんいる。閉校の寂しさについてぜひぶんお話される。いい形で終われるようにお願いしたい。</li> </ul> <p>第3回 平成31年2月4日(月) 14:30~16:00</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己診断、授業アンケートなどの分析も重要であるが、数字にばかりとらわれるのではなく、生徒たちが楽しく有意義な高校生活を送れるよう指導をしていただきたい。</li> <li>働き方改革が声高に叫ばれているように、教師の仕事は大変であると思う。保護者の立場からのお願としては、今後も先生方の無理のない範囲でしっかりと生徒に寄り添った指導を続けていただきたい。</li> <li>閉校を見据えながら、今年度の卒業式もよいものにしていただきたい。</li> <li>高大の連携企画取組みに対して、大教大の教員として感謝を述べたい。</li> </ul>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「確かな学力」の育成	<p>(1) 授業改善と授業力の向上による基礎学力定着と実践学力獲得 ア 課題の発見、改善策の策定による授業改善 イ 「B-upタイム」と「特別進学コース」の発展</p>	<p>ア・授業アンケート、学校教育自己診断に対する分析を分掌・教科など組織的に行うことにより、教職員全員による学校評価活動と授業改善活動を有機的に結合させる。 ・各分掌・学年が学校教育自己診断結果の分析に添った目標と施策をたてることによってPDCAサイクルが有効に働くような実効性のある取り組みを行う。</p> <p>イ 「B-up」と「特進」を進路指導部(H29新設の進学担当者)が担うことによって学校組織の取組みとして定着させる。</p>	<p>(1) ア・授業アンケートの分析、授業改善シート提出の100%維持。(平成29年度100%) ・分掌、学年の方針、総括を学校教育自己診断のPDCAサイクルに結合させる。 ・授業アンケート肯定的評価(平成29年度78%)を80%にする。 ・学校教育自己診断の理解度(平成29年度生徒42%)を44%にする。</p> <p>イ・B-up、特進を進路指導部の業務として定着させる。 ・中堅大学に2名以上合格する。 ・学校幹旋就職内定率100%(平成29年度6連続)を7年連続とする。</p>	<p>ア・教員による授業アンケートの個人分析、授業改善シートの100%提出。アンケートの有効活用と授業改善への意識向上を図る中で、分析・改善に基づいた授業が実践された。(◎) ・授業アンケート肯定的評価78%であった。(△)</p> <p>・自己診断(生徒)の理解度が昨年度より2ポイント上がり44%となったのは、授業改善の成果であり、更なる改善を追求していく。(○)</p> <p>イ・B-up、特進を進路指導部の業務として定着したことにより、効果的な進路指導に結び付けることができた。(◎) ・進学: 摂南(理工)、電通大(工)2、帝塚山(○) ・学校幹旋就職内定率は一次内定率の向上(90%)に加え、100%を7年連続(◎)</p>
2 中退・不登校の未然防止	<p>(1) 生徒の規範意識を醸成、個々の生徒への支援体制を構築する。 ア 「厳しく寄り添う」生徒指導を継続する。</p> <p>(2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。 ア 生徒自らが、積極的・主体的に取り組む学校行事や生徒会活動、部活動を展開し、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。</p>	<p>(1) ア・生徒、保護者に対して、機会ある度に生徒指導の趣旨、方針を丁寧、わかりやすく説明するとともに、PR活動の工夫に取り組む。 ・全教員による登下校指導を継続実施し、生徒の安全確保、遅刻者数縮減の取組みを続ける。 ・日々の生徒把握、保護者連絡、家庭訪問によって長期欠席者を作らない取組みを続ける。 ・立ち上げから3年目になる支援教育委員会の充実と体制強化を図る。 ・教育相談委員会を毎週定期的に開催し、課題のある生徒に対し学校全体で対応するとともに、教育相談(カウンセリング)が有効となるようにSCを活用する。</p> <p>(2) ア・柏原東マップで示した体育祭を基軸とする教育活動をPDCAサイクルの中で維持、発展させる。 ・中高大の連携、八尾翠翔高校との合同練習、合同チームの結成によって、生徒会活動、部活動の活性化を図っていく。</p>	<p>(1) ア・年間遅刻者・欠席者総数(平成29年度1328人・3813人)を10%縮減する。 ・学校教育自己診断の生徒指導納得・共感度(平成29年度生徒40%、保護者72%)を42%、74%にする。 ・学校教育自己診断の規範意識度(平成29年度生徒86%、保護者87%)を87%、88%にする。 ・支援の必要な生徒に対する個別の支援・指導計画を100%作成する。</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断の学校満足度(平成29年度生徒63%、保護者86%)を65%、88%にする。 ・学校教育自己診断における学校行事満足度(平成29年度生徒67%、保護者79%)を69%、81%にする。 ・学校教育自己診断における達成感(平成29年度生徒74%、保護者91%)を76%、93%にする ・学校教育自己診断における人間的成長感(平成29年度生徒69%、保護者82%)を71%、84%にする。 ・部活動加入率(平成29年度39%)を40%にする。</p>	<p>(1) ア・年間遅刻者5%減少・欠席者総数5%減少(△) ・自己診断の生徒指導納得・共感度は生徒38%、保護者71%と減少したが、学年別では1年2ポイント、2年5ポイントの上昇であった。(△) ・自己診断の規範意識度は今年度も高い肯定率を維持していたが、生徒83%、保護者86%とわずかに減少した。(△) ・支援を必要とする生徒に対する個別の支援・指導計画を100%作成し、これらの計画に基づいて効果的な指導を行うことができた。(◎)</p> <p>(2) ア・自己診断の学校満足度は生徒62%、保護者84%と減少したが、生徒の学年別では1年が4ポイント、2年が9ポイント上昇し、3年も2年時に比べると4ポイント上昇した。(△) ・自己診断の学校行事満足度は生徒67%、であったが、保護者は2.5ポイント増の81%を達成した。(◎) ・自己診断における達成感は生徒71%、保護者90%であったが、学年別では2年が生徒9ポイント、保護者5ポイント上昇した。(△) ・自己診断の人間的成長感度は生徒64%、保護者82%であったが、学年別では2年生徒が5ポイント、3年生徒が2年時に比べ5ポイント上昇した。(△) * 生徒の自己目標は高く、評価は厳しい。 ・部活動加入率は29.3%と減少した。(△)</p>

## 府立柏原東高等学校

3 開かれた学校づくりの推進	<p>(1) 柏原地域連携型中高一貫教育体制の維持とさらなる進展を図る。 ア 連携授業(書写・書道)の維持を図るとともに、生徒会活動や部活動および授業見学等を通じ生徒交流・職員交流を進展させる。 (2) 地元大学(大阪教育大学)との高大連携による教育力の向上を図るとともに外部への情報発信力を強化する。 ア 大学との交流事業を拡大し、相互にメリットのある連携を構築する。 イ HPや学校説明会・学校訪問などあらゆる機会を活用し、本校の教育活動の情報発信を強化する。</p>	<p>(1) ア・柏原地域での連携を維持するとともに、中河内地域の中学校との連携を図りながら、部活・行事・生徒会・体験授業などの交流を創り上げていく。 ・教科教育指導、初任者指導、生徒指導、保健指導などの分野で中高教員の交流・連携を図る。 (2) ア・大阪教育大学留学生との国際交流会を継続して開催する。 ・単なる文化交流にとどまらず、個々の学習や研究につながるような内容へ発展させる。 イ・HP、校長ブログのデータ更新、メルマガによる発信について質量ともに向上させるとともに、在校生、中学生、保護者や地域が必要とする情報の提供に努める。 ・より多くの教職員が情報発信に関わるような活動にする。</p>	<p>(1) ア・中学校生徒向け連携授業アンケートにおける満足度、理解度(平成29年度97.8%、98.6%)を98%、99%にする。 ・柏原市内中学校教員と本校教員の交流を本校から提案し、1回以上実施する。 (2) ア・今年度も国際交流会を開催する。 ・機能統合を踏まえて、文化交流をどのように取り組んでいくか検討する。 イ・学校教育自己診断における情報発信(平成29年度保護者70%)を72%にする。 ・教職員学校教育自己診断における情報発信(平成29年度63%)を65%にする。</p>	<p>(1) ・中学校生徒向け連携授業アンケート満足度93.0%、理解度94.0%(△) ・市内進路指導中高連絡会を開催した。(○) (2) ア・八尾翠翔高校の生徒を招いて大教大との国際交流会を開催した。来年度以降八尾翠翔高校への機能移行をすすめていく。(○) イ・自己診断における保護者の情報発信への評価は3ポイント増の72.5%と目標を上回って達成した。(◎) ・教職員の自己診断における情報発信に対する評価は76%と大きく増加した。(◎)</p>
4 教職員の資質向上	<p>(1) 教職員の人権教育推進に対する意識向上を図る。 (2) 「働き方改革」を進める。</p>	<p>(1) 人権教育推進のための教職員研修を通じて意識向上を図る。 (2) 働き方に関する教職員研修や教職員向けメルマガの活用によって教職員の意識改革を進める。</p>	<p>(1) 教職員学校教育自己診断における人権教育(平成29年度61%)を64%にする。 (2) 教職員の意識改革が進むとともに、時間外労働を削減する。</p>	<p>(1) 人権マップに沿って教育を進めている。自己診断59%であったが、診断後『障がい者理解』についての全校生徒対象講演会を開催し高い評価を得ている。(○) (2) 時間外労働を削減することができた。その成果は生徒と向き合う時間の創出にあらわれている。(◎)</p>